

オレオレ詐欺と架空請求にご用心

『オレオレ詐欺』と『架空請求』については、みなさん、テレビや新聞などでご存じでしょう。

被害の報道を見て、「これだけ騒がれているのに、だまされるなんて…」と思う方も多いのでは。

しかし、相談される方の多くは、「聞いてはいたけど、まさか…」と、不安感を煽つたり、もつともらしい説明など手口の巧妙さに驚いています。

◎オレオレ詐欺

「オレだよ、オレ」と電話で呼びかけ、息子や孫と勘違いした家族に、お金を指定の口座に振り込ませる『オレオレ詐欺』。「事故での示談金が必要」「借金の連帯保証人になっている」などと、警察官や弁護士を名乗る人物が電話に出てきたり、夫が仕事で事故を起こしたなどとして、自宅にいる妻を狙った手口が増えていきます。

対策としては、自分から先に両親の名前を言わず、相手に名乗らせたり、電話を切った後、身内などに電話して事実確認をするということが考えられます。



◎架空請求

利用した覚えのない有料サイトの利用料や通信料、債権などを一方的に請求してくる架空請求。最近では『電子消費者未納利用料請求最終通達書』と書かれたはがきが届いた、との苦情が多く寄せられています。

このような場合は、これ以上の個人情報を知られないためにも、連絡せず、放置するのが原則。ただし、無視できないケースも報告されています。それは、『少額訴訟』（原則1回の口頭弁論で判決が言い渡されるもので、欠席すると敗訴してしまうシステム）を利用した架空請求。もし、裁判所からの訴状や呼び出し状が届いたら、放置せず弁護士会や消費生活相談窓口にご相談してください。

▼問い合わせ 市民課

(☎)1855

人が輝き まちがときめく

仲間たち

Group

登別市点訳赤十字奉仕団

『広報のぼりべつ』をはじめ、各種団体が発行する冊子などを登別視力障害者協会と協議しながら点訳するほか、視力に障害のある方が希望する小説などを点訳している『登別市点訳赤十字奉仕団』。今年9月には、市が今年6月に発行した『平成16年度市の仕事まちづくりカタログ』を約3カ月かけて点訳し、市に寄贈しました。今年10月から奉仕団で活動を始めた水野理佳さんは「点訳は楽しいですね。自宅でも時間を見つけて点訳をしています。まだ練習の段階ですが、視力に障害のある方が読んでくれたらうれしいですね」と笑顔で話してくれました。



少しでも視力に障害のある方の力になりたいと考え活動しています

「少しでも視力に障害のある方の力になりたいと考え活動しています。悩みは、点訳初心者講習会の参加者や、新たに奉仕団で活動してくれる方が少ないことです。興味や関心のある方は、ぜひ見学にきてほしいですね」と委員長志賀征子さんは、団員を募っています。



点訳された図書は、しんた21の点字図書室に保存され、視力に障害のある方に貸し出ししているほか、市内の主な公共施設に寄贈されています。

登別市点訳赤十字奉仕団に関するお問い合わせは、志賀さん(☎)2210までどうぞ。